

普及活動情勢報告（令和2年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

実効性のある普及指導計画書の策定に向けて～第2回高南地区農業改良普及推進協議会の開催～



第4期高知県産業振興計画(案)を説明する所長

2月26日、普及所で高南地区農業改良普及推進協議会を開催し、農業者代表、町役場及びJAの関係職員など23名が出席しました。

普及所からは、農業アルバイトの確保や、農福連携の推進、スマート農業などの活動実績を報告し、来年度の普及指導計画書の策定に向け、生産者代表らと意見交換を行いました。

生産者からは、「施設ニラは環境制御技術の普及により収量は向上しているものの、人手不足により農家での集荷調製はできなくなっている」「人手の確保が課題」などの意見がありました。

普及所は、地域の課題を捉え実効性のある普及指導計画を立て、今後も関係機関と連携し、普及活動に取り組んでいきます。

GAP研修会の開催 ～JA高知県四万十カンントリーエレベーター利用組合総会の開催～



高知県版GAPの説明を受ける生産者

2月29日、JA高知県四万十支所で、カンントリーエレベーター利用組合総会が開催され、生産者74名が参加しました。

普及所は総会后に、高知県版GAPの内容や、取組の年間計画などを説明し、GAP取組の推進を図りました。

初めてGAPの説明を受けた生産者からは戸惑いも見られましたが、説明を受けながら実際に点検シートをチェックする方もおり、GAPに取り組んでいこうとする姿も見られました。

普及所は、今後もJA高知県と連携し、高知県版GAPの啓発や実践活動を支援していきます。

酒米の品質向上に向けて ～JA高知県四万十酒米生産部会の開催～



酒米の品質向上にむけた研修会の様子

3月5日、四万十営農経済センターで、酒米生産部会の総会が行われ、生産者12名が参加しました。

普及所は総会后に、移植時期の違いが収量、品質に及ぼす影響を試験した実証結果や、本年度産の酒米の品質データなどを基に、移植時期の適正化を図りました。

生産者からは、「粒張りをよくする方法は」「タンパク質含有率を上げないための施肥方法は」など、更なる品質向上にむけた質問もありました。

普及所は、今後もJA高知県と連携して、四万十町産の酒米の品質向上にむけ支援してきます。

スマート農業 会議もスマートに ～経営・栽培管理システムの検討会の開催～



システムの改善に向け意見交換する社員ら

3月17日、営農支援センター四万十(株)で、経営・栽培管理システムの開発会社等とシステムの改善に向けた検討会を開催し、スマート農業実証経営体の社員ら5名が参加しました。

今回は、コロナウイルスの影響で、遠隔地にいる開発会社担当者とのテレビ会議による検討会となりましたが、ユーザーインターフェースの改善などについて協議しました。

普及所は、令和2年度のスマート農業実証プロジェクトを円滑に進めるため、コンソーシアムの構成員と連携を取りながら、実証経営体の経営改善を支援していきます。

四万十町の食材を活かした料理を伝承！

～土佐の料理伝承人（高南地区農業村女性グループ研究会）による「日曜市料理教室」の開催～



レシピを説明する女性グループ員

2月23日、高知県立高知城歴史博物館で、高南地区農業村女性グループ研究会が講師を務める「日曜市料理教室」が開催され、受講者19名が参加しました。

女性グループ員は、町内産の米、里芋、アスパラ、豚肉等を使った「サラダ巻き」「里芋のコロコロ揚げ」「豚肉のアスパラ巻き」「桜餅」などの料理講習を行いました。

受講者からは、「四万十町がアスパラや里芋の産地と知らなかった」「ぜひ家でも作ってみたい」などの感想があり、大変好評でした。

普及所は、今後も女性グループが行う料理講習などにより、若い世代へ郷土料理を伝承する取組を支援していきます。